



PRESS RELEASE

2019年2月21日

アッヴィ、東京本社移転

日本の医療への継続的なコミットメントと持続的な成長を目指して

- 2013年のアッヴィ誕生から継続的に成長
- 豊富な開発パイプラインの迅速な開発、新薬上市に備え組織を拡大・強化
- 柔軟かつ健康的な働き方を推進し、社員の成長をサポート

アッヴィ合同会社(本社:東京都港区、社長:ジェームス・フェリシアーノ)は、2月18日付で、本社を移転したことをお知らせいたします。アッヴィは米国に本社を置く、研究開発型のバイオ医薬品企業で、日本においては、アボット ラボラトリーズ社の分社化により2013年に設立されて以来、東京港区に本社を置いています。

設立から2017年までの5年間で、売上高は1.4倍、従業員数は1.6倍、年平均成長率は8.9%と大きく成長し、2018年以降も成長は続いています。アッヴィは充実した開発パイプラインを有し、迅速な開発を目指し、新薬の上市に備え、組織を拡大・強化していくことで、今後も患者さんのニーズに応え、日本の医療に貢献していきます。

オフィス移転を機に、アクティビティ・ベース型・ワークスペース(ABW)を導入し、社員が柔軟かつ健康的な新しい働き方を実践し成長することをサポートします。ABWは社員がその時々に必要な業務に対して最適なスペースを選択できることを可能にし、社長も含め全員に固定席はありません。個々の仕事の創造性や効率性を高め、部署を超えた社員同士のコミュニケーションやコラボレーションの機会を増やすとともに、相互の信頼関係を深め、共に高いパフォーマンスを発揮する組織を創っていきます。

アッヴィ合同会社の社長であるジェームス・フェリシアーノは、次のようにコメントしています。「成長を続けているアッヴィにとって、今回のオフィス移転は、まさに日本の医療への継続的なコミットメントを示すものです。医療を取り巻く環境や制度は、これまでにないスピードで大きく変化している中、アッヴィが今後も持続的に成長していくためには、多様性のあるインクルーシブな職場を整え、自主性のある柔軟な働き方を推進していくことが重要です。私たちは今後も『働き方改革』を一層、進めていくことで、患者さんの笑顔に貢献することを目指します」



■本社所在地

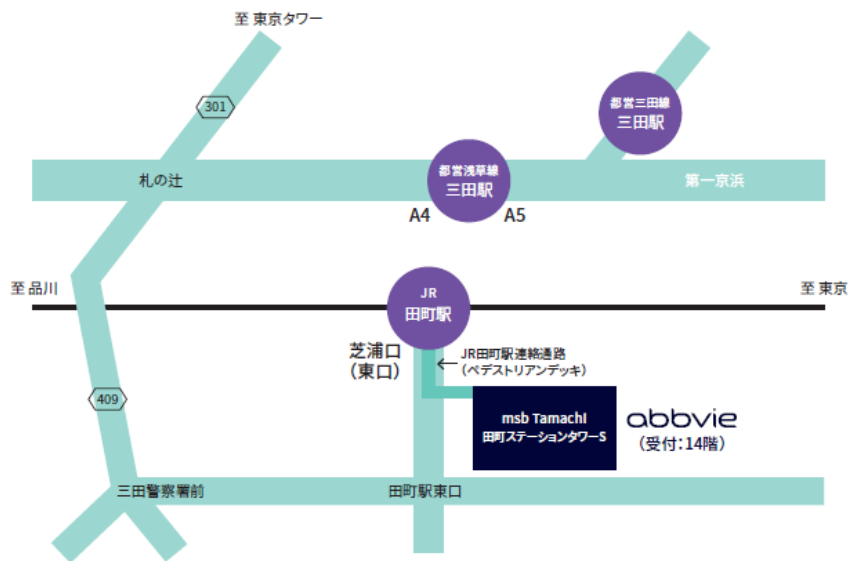
〒108-0023

東京都港区芝浦三丁目1番21号

msb Tamachi 田町ステーションタワーS（受付:14階）

電話番号・FAX 番号に変更はありません

■アクセスマップ



電車ご利用の場合

- JR山手線、京浜東北線「田町」駅
芝浦口(東口)からペDESTリアンデッキ直結 徒歩1分
- 都営浅草線、三田線「三田」駅から 徒歩3分

■エントランスについて



社員のみなならず訪れる人誰もが、温かく優しい雰囲気にもまれる、科学と自然をモチーフにしたスペース。また、変化に富み先進的なディスプレイは、「慣例よりも、新しいアイデア」、「安定より、新しい挑戦」を追求するアッヴィの文化を具現化しています。

■ABWの4つのエリアについて

コラボレーション

カフェスタイルのカジュアルなミーティングからチームでのディスカッションまで行えるエリア



スタンダード

短時間から長時間のデスクワークを行うエリア。また、プライバシーに配慮したデスクも設置



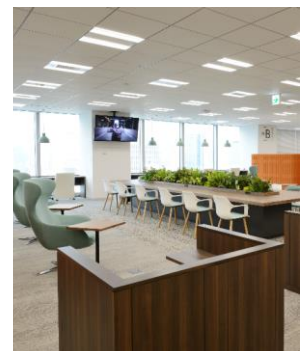
コンセントレーション

集中的に仕事ができるエリア。電話や面談用のブースも設置



リフレッシュ

休憩やランチ用のエリア。個人用のラウンジとグループで使えるカフェを設置





■アッヴィについて

アッヴィは、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業です。世界で最も複雑かつ深刻な疾患に対する、革新的な先進治療薬の開発を行っています。その専門知識、献身的な社員、イノベーション実現に向けた独自の手法を通じて、免疫疾患、がん、ウイルスおよび神経疾患の4つの主要治療領域での治療を大きく向上させることをミッションに掲げています。世界中の人々が持つ健康上の課題への解決策を進歩させるため、75カ国以上の国でアッヴィ社員が日々取り組んでいます。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。Twitter アカウント@abbvie、Facebook、LinkedIn や Instagram でも情報を公開しています。

日本においては、1,000人を超える社員が、医療用医薬品の開発、輸入、製造販売に従事しています。自己免疫疾患、新生児、肝疾患、神経疾患、がんの各領域を中心に、患者さんの生活に大きく貢献できることを願っています。詳しくは、www.abbvie.co.jp をご覧ください。